

自衛官の供述と小西議員発信（IWJ等）による比較

自衛官の供述	小西議員発信（IWJ等）から
<p>（議員と目が合い本人に軽く会釈されたが、会釈せずに走りつづけ、自民党本部に渡っていく交差点で待つ形で議員は本人から90度右側の横断歩道を渡ろうとしており、2人が交差点角のそれぞれの横断歩道の前でしばらく待っている状態になった。この時の2人の距離は7から8mぐらいの距離だった）</p> <p>（再度交差点で振り返り目が合った時、議員から会釈された際に挨拶を返したくない気持ちもあり、無視をするのもどうかと思って、思わず）</p> <p>自衛官：「国のために働け」</p>	<p>（ジョギング姿の男性は、こちらを何度も鋭い目つきで振り返り、その度に私は会釈を返していた。交差点に着いた時、男性は赤信号の前で立ち止まり、自民党本部側に渡ろうとして立ち止まっていた。男性から5mぐらい離れた位置の国会議事堂向きの横断歩道前に立ちタクシーを拾おうとしていた）</p> <p>自衛官：「小西だな」（あるいは、「小西か」）</p> <p>議員：「小西です。」</p> <p>自衛官：「国のために働け」「お前、ちゃんと仕事しろ」</p>
<p>議員：「国のために働いています。安倍政権は、国会で憲法を危険な方向に変えてしまおうとしているし、日本国民を戦争に行かせるわけにはいかないし、戦死させるわけにもいかないから、そこを食い止めようと思って、私は頑張っているんです。」</p> <p>（本人は、議員がこの種の反論になれていると感じた）</p>	<p>（街中で「小西さん、頑張ってください。」と言われることの方が多いですが、たまにそのような安倍総理を支持する市民の皆さんから、厳しいお言葉を頂くので、私には、そのような発言に対して応答する決まり文句を用意しており）</p> <p>議員：「国会議員として信念に基づいて仕事をしていきます。」</p> <p>（おおよそ、安倍総理を支持される方は、安倍総理の政策の一番の悪い点である安保法制のことで発言をされますので）</p> <p>議員：「集団的自衛権行使の解釈変更が憲法違反であることを証明した国会議員です。信念を持って国民の皆様のために働いています。そうした中身は、私のホームページで沢山資料を掲載していますので、ぜひご覧ください。」</p>
<p>（議員の「戦死」の言葉の言い方が非常に軽く感じ、自衛官としての使命感が軽んぜられたと感じ）</p> <p>自衛官：「俺は自衛官だ。あなたがやっていることは、日本の国益を損なうようなことじゃないか。戦争になった時に現場にまず行くのは、我々だ。その自衛官が、あなたがやっていることは、国民の命を守るとか、そういったこととは逆行しているように見えるんだ。東大まで出て、こんな活動しかできないなんて馬鹿なのか。」</p>	<p>自衛官：「お前は気持ち悪いんだよ。」「お前は国民の敵なんだよ。国民の敵だ。」</p> <p>（「気持ち悪い」と「国民の敵は」は自衛官とのやり取りの最初の段階で言われた。言われた時のこれらの言葉を投げ付けるかのような自衛官の表情も鮮明に覚えている。私は「国民の敵だ。」と言われたことに対して）</p> <p>議員：「いや、国民の皆さんが憲法違反の戦争で殺されるようなことがないように、一生懸命頑張っているんです。」</p> <p>自衛官：「（「私」か「俺」かで）自衛官なんだ。」</p> <p>（私は驚いて）</p> <p>議員：「え、あなたは自衛隊員なんですか。」</p> <p>（現地では、専ら「自衛官」ではなく「自衛隊員」と意識的に発言していた）</p>
<p>（議員はだんだん本人に近づき本人も3～4歩近づき）</p> <p>議員：「あなたは現役の自衛官なのか。現役の自衛官が、そんな発言をするのは、法令に反する。」</p> <p>自衛官：「私のこの発言は、自衛官の政治的活動には当たりません。」</p> <p>議員：「名前と所属を言いなさい。」</p> <p>自衛官：「言いません。なんで言わないといけないんですか。」</p> <p>議員：「現役の自衛官がそんな発言をするのは、許されない。これは大問題だ。名前と所属を言いなさい。」</p> <p>自衛官：「いいえ、言いません。今は、一国民として私の思いを伝えています。」</p> <p>議員：「撤回しなさい。現職の自衛官がそんなことを言うのは大問題だ。防衛省の人事局に今から通報する。」</p>	<p>（以下の自分の発言は今でも記憶に鮮明だが）</p> <p>議員：「集団的自衛官行使の解釈変更、安保法制というのは法論理ですらないペテンであり、めちゃくちゃな憲法違反なのです。そういう憲法違反の戦争で、あなた方自衛隊員が戦地に送られて殺されること、また、御家族が悲嘆の涙に暮れること、そうしたことが絶対にないように信念を持って私は国会議員として活動をしているのです。」</p> <p>自衛官：「お前は気持ち悪いんだよ。国民の敵だ。」</p> <p>（この発言に続いて、「東大を出て」云々、「馬鹿」云々という発言を受けたと記憶している）</p> <p>議員：「一般の人であれば、国会議員を批判する言論報道の自由は憲法で認められているので、それはもう自由で</p>

自衛官の供述	小西議員発信（IWJ等）から
<p>自衛官：「撤回しません。何が悪いんですか？名前は言いません」（繰り返し言ったような気がする。）</p> <p>（この時の2人の距離は、2 mから3 m程度に縮まっていた）</p>	<p>すよ。私たち国会議員も批判を頂くのが仕事です。」「あなたが本当に自衛隊員であれば、あなたの今の発言というは、「国民の敵だ」というふうに私のことを言いましたから、それは自衛隊員の服務、職務上のルールに反して、自衛隊法を始め法令に反する発言だから撤回しないとイケない。」</p> <p>（以下、「自衛隊員の服務の宣誓」などから「服務」という言葉が自衛官と名乗る者に対しては効果的かと考え、「服務」を「法令違反」とセットか単独で用いた）</p> <p>自衛官：「国会議員に意見を言って何が悪いんだ。」</p> <p>議員：「いや、一般市民の皆さんが批判するのは、それは全くの自由であるけれども、あなたが自衛隊員である以上は、今、国会で、まさにシビリアンコントロール、日報の隠蔽の問題で、シビリアンコントロールが国会で一番議論されていて、かつ、社会でも大きな問題となっている。あなたのその、国会議員を「国民の敵だ」という発言は、自衛隊員の服務に反して、それはシビリアンコントロールそのものを否定することなんだから、撤回しないと駄目だ。」「所属と名前を言いなさい。」</p> <p>自衛官：「国会議員に意見言って何が悪いんだ。」</p> <p>（男性は、ずいぶん意気軒高で強気な感じ迫って来て、男性との距離が狭まってきましたが、その際、一瞬私の手と彼の手あるいは体の一部が触れ合ったため、私は、突発的な揉み合いに発展してはいけないと思い、手ぶらであった両手を身体の後ろに回していましたが、この姿も男性を刺激する可能性があると思い直し、途中で手を前方の腰の下に組み替えた）</p> <p>（私は、国会議員として自衛隊員だと名乗る人から「国民の敵だ。」という発言を受けたので、とにかく発言を撤回させないと、国会議員として国民の皆さんに責任が果たせないと考え「撤回すべきだ。」と言いましたが、男性は「国会議員に意見言って何が悪いんだ。」「なぜ、偉そうな態度を取るんだ」などの発言を繰り返し言うだけでした）</p>
<p>（議員は電話をしながら、本人から少しずつ離れていき、向かいの交差点にいた警察官に対し）</p> <p>議員：「お巡りさん、お巡りさん、現役の自衛官が・・・、来てください、来てください、お巡りさん！」</p> <p>自衛官：「あなたは国民を代表する議員でしょ。私なんかよりも、何倍もの力を持っていて、何だってできるのに、何で一国民が訴えていることを聞いてくれないんだ。」</p> <p>（議員は電話をしており、自衛官の話は取り合ってくれないような状況だった。距離が再び2 mから3 m程度に縮まっていた）</p> <p>自衛官：「あなたは何で権力をかさに着るようなことをするんですか。国会議員だったら、一国民が言ってい</p>	<p>（強圧的な態度で興奮した大柄の自衛官に対峙して、「国民の敵」などの発言を撤回させるため、信号の反対側にいた若い警察官を国会議員と名乗ったうえで横断歩道を渡って呼びに行き、呼び掛けの反応が鈍かったので警察官の左腕を掴んで自衛官の方へ連れて行った。なお、この時には誰にも電話はしていない。その後複数名の警察官が来てくれた）</p> <p>（この頃に、「明日、参議院の外交防衛委員会で小野寺防衛に質問をすることになっている。発言を撤回しないならこのことを国会で取り上げる。」と発言した記憶があるが、自衛官の反応が乏しく「お前は国民の敵だ。」「なぜ、そんなに偉そうにするんだ。」「本当に気持ち悪い。」などの発言を繰り返すので、仕方なく）</p>

自衛官の供述	小西議員発信（IWJ等）から
<p>ることを、ちゃんと聞くぐらい、いいじゃないですか。本当にそういう行為（人の話を聞かない、すぐ通報する、すぐ警察を呼ぶという男らしくない行為）が気持ち悪い。」</p>	<p>議員：「撤回しないのだったら、今からこの携帯電話で、防衛省の人事担当者に電話をする。あなたのことを通報する。あなたは防衛省の中で処分される。それでもいいですか。撤回するんだったら考えるけれども、撤回しないんだったら、この携帯電話であなたを通報しますよ。」</p>
<p>議員：（電話をしながら）「私は参議院の小西ですが、今、現職の自衛官と名乗る男性から私のことを罵倒したり、冒瀆するような発言をしている者がいます。これは大問題ですから・・・」 （本人は語尾の方は明確に聞こえなかった）</p>	<p>（国会議事堂の前で自衛隊員を名乗る者からシビリアンコントロールの崩壊を意味する「国民の敵」という発言を受けたため事務次官に電話した） （私が官僚トップの事務次官にまで電話をしたのは、国会議事堂の前で自衛隊員を名乗る者からシビリアンコントロールの崩壊を意味する「国民の敵」という発言を受けたからで、「気持ち悪い」などでは事務次官まで電話をしない） 議員：（防衛事務次官との電話）「私の目の前にいる自衛隊員だと名乗っている人が、私のことを「国民の敵だ」などと言っている。私のことを「気持ち悪い」といった暴言を浴びせている。これは自衛隊の服務に違反することだと思うので、直ちに人事担当者に事務次官から連絡をして、私の携帯に電話させてください。」</p>
	<p>（国会議員に対して「国民の敵」という発言を自衛隊員がすることがなぜ許されないかを「歴史の再来」という意味で強烈な印象を持つであろう具体的な史実をもって論じ、撤回を促そうと思立ち、） 議員：（国会議事堂を指さして）「まさにこの場所で、政治家を「国民の敵」と叫びながら軍人がクーデターを起こそうとして「天誅だ」と言って、5・15事件、2・26事件によって、総理大臣や財務大臣などを暗殺していったんだ。そこから日本が軍国主義の政治に落ちていって、国民に大きな悲慘が降りかかった戦争が起きたんだ。だから、自衛隊員は、政治家の国会のシビリアンコントロールに服さなければならないんだ。ところが、あなたが、現職の国会議員である私を、小西と知っていて、私を捕まえて「国民の敵だ」と言い放った。その発言というのは、シビリアンコントロールを否定することになるんだから、あなたはその発言を撤回しないとイケない。自衛隊の服務に反し、法令に反する発言なんだ。」</p>
<p>（警察官が1名近づいてきて、本人と議員の間に立つ） 自衛官：（警察官に）『勤務中に余計な仕事を増やしてしまい、本当に申し訳ないです。すみません。』 警察官：「はい。」 議員：（警察官に）「この人は現役の自衛官らしいんですけど、いきなり私に国のために働いて、強く罵るんですよ。私は国民を代表する国会議員なんです。その国会議員に対してね、一自衛官がこんなこと言って来るなんてありえないから。彼は自衛官でね、強力な武器も扱う、警察のあなたたちもかなわないような実力組織なんです。実力組織の人間があんな発言をす</p>	<p>（この頃には、複数の警察官が最初の若い警察官の応援に駆け付けていた。現場の責任者らしき年配の警察官から怪我の有無を聞かれ、その警察官の指示で最初に呼び寄せた若い警察官が私の護衛係として自衛官との空間に立っていた） （この頃に「自衛隊は警察も敵わない実力を有する組織だから、絶対にシビリアンコントロールに服さなければならない。自衛隊員が国会議員に対し「国民の敵」「気持ち悪い」などといった発言を行うことは本当に恐ろしいことなのだ」という趣旨の発言を自衛官にも聞こえるよ</p>

自衛官の供述	小西議員発信（IWJ等）から
<p>るなんて、恐ろしい。」 （本人は徐々に冷静になっていたため、特に何も言わず黙っていた）</p>	<p>うに警察官らに言った記憶がある。）</p> <p>（発言を撤回するのであれば、防衛省の人事当局に通報しない、発言を撤回しないのであれば防衛省の人事当局に通報する旨発言したが自衛官は撤回を拒否した。その場で自衛官を取り囲む体制を取っていた警察官らに対して「警察官が国会議員に対して国民の敵と言ったら警察官の服務に反するよね」と真ん中にいた自衛官にも聞こえるように聞いたら、警察官はみな頷いていた。）</p>
<p>（4名程度の警察官が合流） 自衛官：（警察官に）「勤務中に本当に申し訳ないです。すみません。」 （この時の本人と議員との距離は、7mから8m程度） （議員は事情聴取に応じつつ携帯電話で話している様子だった） 議員：（電話を切る間際に自衛官にも聞こえるように） 「・・・防衛省の人事局長ですよね。HPも検索すればわかるから。」 （最初の警察官が来てから、本人は事の重大さを認識し、謝罪しようと思いついていたため、謝罪するための心の準備をしながら待っていた） 警察官：（自衛官に）「駆け足の途中で寒くないですか？」 「どうする、謝っておくかい？」</p> <p>自衛官：（警察官に）「はい、もちろん。ご迷惑をお掛けしましたし、ぜひ謝りたいです。」 警察官：（自衛官に）「もし何か言うことがあれば、今この場で言ってもらえるといいと思いますよ。」 （警察官に間を取り持ってもらい、本人から議員に近づき、3mぐらいのところまで向き合い） 議員：「あなたのさっきのような、人格を否定するような罵ったところとか、私の政治活動を冒涇するようなこととか、そういったところを謝罪してもらえなかったら、特に防衛省に通報したりとか、そういうことはしないから。」 （謝罪しようと思っていたため、議員に対し今回のやり取りで、「馬鹿」「気持ち悪い」と言ったことについて議員の人格を傷つけてしまったことに対するお詫びの気持ちで） 自衛官：「個人の尊厳を傷つけるようなことと、考えの違いはあるかもしれませんが、日々日本をより良くしようと頑張っている政治活動を冒涇するようなことを言ってしまい、大変申し訳ありませんでした。」</p>	<p>（現場では自衛官に対して「国民の敵」という発言の撤回をさせるため、警察官らに対しても私が一貫して状況をリードしており、私が警察官に「事情聴取」をされたり、警察官から自衛官の謝罪等のための「間を取ってもらったり」したことは一切ない。）</p> <p>（この間、事務次官の指示で私の携帯に着信歴を残し直ちに私から発信していた人事教育局長との通話を保持しながら、目の前に居る自衛官と局長と双方に聞こえるように）</p> <p>議員：（人事教育局長との電話）「今、防衛省の人事の一番偉い局長と電話がつながっている。武田人事教育局長という人で防衛省のホームページを見ればインターネットに名前が載っている人だ。その人に、あなたの名前と所属を伝えることになりますよ。だからその発言を撤回した方がいいのではないか。撤回するべきだ。」 （こうした発言があったことは現場にいた警察官も認めている）</p>
<p>（議員は、ご自身の政治理念を述べられ、具体的にははっきりとは覚えていないが、70年前に総理大臣を殺して2・26事件や5・15事件など、クーデターが起き</p>	<p>（それでも直ぐには撤回しなかったが、局長と私の通信を受けてようやく態度を変え始めた。少なくとも局長との通話の間には所轄の麹町署の警備課長も現場に到着し</p>

自衛官の供述	小西議員発信（IWJ等）から
<p>たことを踏まえ、シビリアンコントロールが大事という ような趣旨のことを話した)</p> <p>議員：「あなたどう思う？」</p> <p>自衛官：「勉強になりました」 (本人は、自分は未熟だ、ちゃんと社会人としてやって いかなきゃいけないなという意味だった)</p> <p>(議員が近づいて、右手を差し伸べ、本人も両手で握り 返した。議員はそのまま手を強く握りしめ)</p> <p>議員：「見解の相違もあるけど、あなたも家族がいるで しょうし、組織の中でも若いだろうから、しっかり頑 張ってもらわないといけない。今回のことはそうやっ て言ってもらったから、防衛省には言わないから。あ なたのような自衛官を殺させるわけにはいかないし、 だからこそ憲法改正を何とかやめさせようと思ってい る。だから活動しているんだ。先日も、質疑の時に防 衛大臣にサービスの宣誓の意味を問うたけれども、あの 人は答えられなかったんですよ。あなたはそのような人 の下で働いているんだってことをよく認識したほうが いいですよ。そういうところを私は危機感を持っている から、頑張っている。あなたもまだ若いから、日本 のために一緒に頑張りましょう。」</p> <p>(何も反論せず、頷きながら聞き)</p> <p>自衛官：「すみませんでした。」</p> <p>議員：「帰っていいから」</p>	<p>て場を仕切る中、自衛官も段々と態度を改め、私は「ま だ、若いじゃないか」「家族もいるんだろ」と自衛官に反 省を促すための発言を繰り返すなどした)</p> <p>自衛官：「撤回します。」</p> <p>議員：「撤回の言葉を言ってみてください。」</p> <p>自衛官：「勉強になりました。」 (撤回・謝罪の発言としては余りにも不適切なものであ るため、私も現場に居合わせた警察官も皆呆れて(一部 には失笑もあり))</p> <p>議員：「それじゃ撤回にならないでしょ。」</p> <p>自衛官：「すみませんでした。」 (この場違いな「勉強になりました」との発言があった ことは、現場にいた警察官も認めており、私が5・15 事件等の史実をもって論じていた時の自衛官の返し言葉 では決してない。)</p> <p>(まだ働き盛りの若い隊員であるので、武士の情けで彼 の撤回、謝罪を受け入れた)</p> <p>議員：「今の、あなたの撤回と謝罪を受け入れることにす るので、防衛省にはあなたのことは通報はしない。しか し、こうした事件があった以上、国会議員として国民へ の責任から私はあなたの所属と名前を知っておく必要が あり、聞かない訳ないはいかない。所属と名前を言っ て下さい。」</p> <p>(自衛官の隣に立っていた警察官が職務質問で氏名と所 属を聞いていると発言があり、私と警備課長からの「後 でこの警察官から聞いていいか」という確認に自衛官が 「構いません」と答えた。しかし、自衛官を立ち去らせ た後に、この警察官が氏名しか聞いていないことが分か り、警備課長が怒り警察官らが自転車で自衛官を追い掛 けて行き、タクシーで現場を離れる私は翌日の朝に麹町 署から所属の報告を受けることになった。なお、このタ クシーに乗った直後に電話した知人の弁護士は私が「自 衛隊員から国民の敵と暴言を受けた」と発言したことを 明確に記憶している)</p> <p>(彼に握手を求め、強く手を握りながら、)</p> <p>議員：「数週間前（3月20日）の外交防衛委員会で小野 寺大臣に『事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務 の完遂に努め、もって国民の負託に応える』という意味 を訪ねた際、何度聞いても、小野寺大臣は答えられな かった。その際、「私の理解は『いざという時、有事の際 には命がけで戦って、国民の負託に応える』そういう意 味と理解しています。安倍総理は最高指揮官であり、大 臣は戦闘司令官であるのだから、私の質問、防衛省の省 内中継カメラで、全隊員が聞いているのだから防衛大臣 として答えられなかったら問題じゃないですか。」と発 言をしたが、結局、小野寺大臣は答えられなかった。」</p> <p>議員：「国民のための安保法制と言いながら、集団的自衛 権行使は法的な理屈ですらない、全くペテンの憲法違反 だ。違憲の根拠を突き付けたら何も答えられず、誤魔化 しの答弁拒否をする。自衛隊明記の改憲もこのペテンの 不正行為で国民を騙す、憲法違反の改憲なんだ。そして、 サービスの宣誓の意味を答えてと質問しても何も答えられ ない。そんな連中から皆さんの命と尊厳を守るために、皆 さんの家族が悲嘆の涙に暮れることが断じてないよう</p>

自衛官の供述	小西議員発信（IWJ等）から
	<p>に、私は信念を持って国会議員として闘っているんだ。どうか、職場の皆さんにこういう国会議員がいることを伝えてくれ。そのことを最後にあなたにお願いして、今日はあなたにはこのまま立ち去ってもらい、ジョギングに戻ってもらうことにする。」「帰っていいから。」</p> <p>（男性に告げて別れたが、この握手をしながらの発言の最後の方で「日本のために頑張ろう」といった旨の発言をした記憶はある。）</p> <p>（この時の握手は仲直りのためのものではなく、彼に自らの過ちと国会議員としての信念を伝えるためのもの。なお、この夜の段階では、彼のことを第一線の部隊に所属するある意味素朴で粗野な自衛隊員だと思っていたが、翌日の麴町警察署からの報告で統合幕僚監部に勤務する自衛官と知り、自衛隊の統率指令組織であり日報問題で隠ぺいにも関与していた統合幕僚監部所属の隊員である以上、国民への責任から国会で取り上げる他ないと判断し、17日午前中の外交防衛委員会で小野寺大臣等に質問を行った。幹部自衛官であることを防衛省からの報告で知ったのはその日の午後である。）</p>